

令和 6 年度

1. プログラムの履修・修得状況

「データ・AI リテラシー」はデータサイエンス学部は 1 年次前期科目として、他の学部は 1 年次後期科目として開講されました。出席率は全 15 回平均で前期約 93%、後期約 90%であり、非常に高いものでした。前期後期ともに出席回数と成績評価には正の相関があり、成績の分布は前期が S:26%、A:59%、B:10%、C:3%、D:2%となり、後期は S:37.1%、A:41.2%、B:11.9%、C:4.5%、D:5.3%となりました。昨年度と比較して、S 及び A 評価が前期 9 ポイント、後期 4.3 ポイント増加しており、高い成績を修めた学生が多くなりました。

「情報リテラシー」は全学部で 1 年次前期科目として開講されました。出席率は全 15 回平均で約 93%となり、他の科目に比べてとても高い値でした。また、出席回数と成績評価には正の相関があり、成績分布は SS:0.2%、S:52.5%、A:34.3%、B:6.9%、C:2.7%、D:3.3%というものでした(四捨五入のため合計が 100%になりません)。

2. 学修成果

「データ・AI リテラシー」では授業内容の予習用および事前事後学習用の動画を配信しています。これは第 2、3、4、6、7、8、10、11 回の各回で、その回の授業内容に応じた短い動画になっています。これらの視聴率は第 10 回まで 94%以上の視聴率となっており、ほとんど全ての学生が毎回視聴しています。また第 1、3、5、11 回には事前事後学習用の e ラーニング教材を用意しており、全体で 97%以上と多くの学生が取り組んでいることがわかりました。

「情報リテラシー」では第 1 回から第 7 回にかけて事前学習教材を用意しています。平均して 95%の学生が毎回これらの教材に取り組んでいたことがわかりました。また復習用の e ラーニング教材には 97%の学生が取り組んで成果物を提出しています。授業中の取組としては PBL(Project Based Learning)を行い、各自の提出した成果物で授業目標への到達度を測っています。成果物の提出率は全体で 96%となっており、非常に高いものでした。なお、空き時間をタイピング練習にあて、74%の学生が長文を 200 回以上入力する練習を修了しました。

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

「データ・AI リテラシー」に対する授業アンケート(回答率 94%)で授業内容の各分野について理解度を 10 段階で聞いたところ、どの分野でも 5 以上(理解できた～概ね理解できた～完全に理解した)の回答が全体の 8 割以上を占めていることがわかりました。またそれらを総合した「この授業の到達目標は達成しましたか」という質問には、非常にそう思う:11.4%、そう思う:64.8%、どちらでもない:22.7%、そう思わない:1.1%、まったくそう思わない:0%という回答が得られました。このアンケートから、全体の 7 割以上が到達目標を達成したと感じていることがわかります。

「情報リテラシー」に対する授業アンケート(回答率 93%)でも授業内容の各分野について理解度を 10 段階で聞いたところ、多くの分野で 5 以上の回答が全体の 8 割以上を占めました。これらを総合した「この授業の到達目標は達成しましたか」という質問には、非常にそう思う:14.4%、そう思う:61.4%、どちらでもない:22.3%、そう思わない:1.6%、まったくそう思わない:0.3%という分布になりました。これを見ると、全体の 8 割以上が到達目標を達成したと感じていることがわかります。